

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>意義を職員間で理解し、住み慣れた地域でその人らしい生活をおくれるように、運営方針の柱に掲げている。</p> <p>○</p>	<p>認知症の各自の症状を理解し、行動障害を引き起こさずその人らしく生活出来る様より具体的な理念を職員で作りたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>認知症ケアの理念について常に話し合いを持っている。</p> <p>○</p>	<p>認知症ケアの理念を追求し、実践できるよう取り組んでいきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議、家族訪問時 理念の方向性を説明し、取り組んでいけるよう説明している。</p> <p>○</p>	<p>ホーム便りを(月に1回)家族へ発行したい。地域の掲示板を利用して掲示していきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>玄関を開放し、地域の方へあいさつ 声掛けを行っている。散歩に出かけたときは、私たちがからの挨拶 会話を心掛けている。</p> <p>○</p>	<p>ホームへ気軽に足を運んでもらえるよう、アピールの仕方を工夫したい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に加入し、毎月1回ミニディサービス 行事へ参加している。夏休みには、近所の子供たちを受け入れている。</p> <p>○</p>	<p>気軽に訪ねてくれるように交流を深めたい。区の福祉ネットワークに所属し情報を得たい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームって？質問されるとその都度説明行っています。が改めて勉強会に至っていない。	○	認知症の啓発に努めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	退職 人事異動に伴い半分の職員が入れ替わり、結果報告の改善点に取り組めなかった。しかし外部評価の目的 意義について勉強会を行った。	○	外部評価の目的 意義を理解し結果報告の改善に取り組めるよう努力したい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の役割 目的を地域へ広める方向性を、導き出すことができた。	○	会議を活用しホームの役割 目的を広め地域へ密着していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議 事務連絡に留まっている。	○	行事主催者との連携を取り、利用者を故郷の行事に参加させ回想法を取り入れたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	案内のある研修へ参加し随時職員へ説明しています。	○	職員共に研修へ参加し必要な方へ提供できるよう、勉強会を持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についておりに触れ話し合い、自分たちのケアー 言葉遣いなどを見直し、虐待防止に努めている。	○	常に自分たちのケアー 言葉遣いが虐待に繋がっていないか、共に話し合い 良いケアーを身につけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームで出来ること、出来ないことを明確に説明している。解約前にも、今後どうしたいか？尋ね他のサービス事業所の説明を行っている。	○	解約に至るまでに、介護者 利用者が困らないように、その後までもっと共に考えて 継続したサービス提供へ繋がった。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いを汲み取ることが出来る様に、日頃から傾聴し得た情報を職員間で共有し、ケアに活かしている。	○	不満 苦情を良い方向へ改善出来るよう、認知症について更なる知識を得て取り組んでいきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族訪問時に様子を話している。個人手帳作成 収入支出を記録している。ホーム便り発行している。	○	ホーム便りを月に1回発行していききたい。全職員が日々の暮らし、健康状態を説明できるように観察力をつけたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすい雰囲気を作り、表情 会話から感じ取れるよう心掛けています。	○	行事への参加を呼びかけ、家族同士の繋がりを持てるように支援していききたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護会議 勉強会 業務中その都度意見や考えを聞き、伝えられるように努力している。	○	常に相談出来る雰囲気を作り、質の向上に繋げ ストレスにならないように傾聴していききたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務作成前より状況 予定等を聞き考慮し、勤務調整を行っている。	○	利用者 家族へ迷惑にならないよう、又職員の労働の負担にならないように配慮したい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の馴染みの関係の密度により、説明する時期、話し方を考慮している。家族へも訪問時に異動の説明を行っている。	○	利用者の精神ダメージを考慮し、上手く伝えられるよう努力したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会へ積極的に参加させている。理解できていないことを、見つけ出し勉強会も行っている。	○	全職員が研修会へ参加できるよう支援し、ケアの躓きをいち早く見つけ常に勉強できるようにしたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会へ参加。研究発表会の開催向上できるよう取り組んでいる。	○	今後も質の向上に取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間コミュニケーションを心がけ、食事会を行い互助会への参加も支援している。勤務中30分の休憩も行っている。	○	業務について話し合いが持てる関係作りを心掛けたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	状況に応じて介護保険について説明を行っている。勤務取得の為のアドバイス 勉強会などの支援をしている。勤務を調整している。	○	全職員が資格取得できるよう今後も支援していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	直接本人に面会し必要なケアをアセスメントし、思いを受け止めサービスへ繋がられるようにしている。	○	思いをしぐさ 言葉 表情から汲み取れるようにしたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの経緯を聞き、私達に求めているケアを聞きだせるようにしている。	○	思いをしぐさ 言葉 表情から汲み取れるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞いたうえで、今必要なサービスについて説明を行い事業所へつなげている。	○	事業所との連絡を密にとり、より良いサービスへ迅速に繋がられるようにした。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学以前に、職員に情報を提供し、誰もが受け入れ出来る、安心の場である雰囲気を職員共につくっている。	○	職員全員で情報を共有し、見学時に必要なケアを観察できる。安心を与えられる職員になれるようにしたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の家族での出来事を報告したり、子育て 結婚の事を相談している。	○	生活の場で培ってきた人としての心を、これからも相談をとうして助言をありたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活を報告し、家族からの情報も共有し望むケアに近づけるように努力している。	○	ホームでの行事を共に多く持ち、家族との関係を作りあげたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出 外泊の支援を行う。行事への招待状を送り面会が途切れないようにしている。常に家族の訪問を望んでいる事を伝えるようにしている。	○	家族と行えるイベントを取り入れて行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた地域の行事への参加 ドライブを行っている。	○	全利用者を地域へ定期的に連れていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	コミュニケーションの取れるように、日々利用者を観察し支援している。	○	良い関係を保たれるように職員同士情報を共有し支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	全職員が移動した利用者に面会を行っている。家族がホームへ立ち寄った時は、快く受け入れ情報を共有している。	○	連絡の取れない退去者の情報源をつくりたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを聞きとり 伝えられない利用者には、表情 行動 言葉から汲み取れるよう、職員情報を共有し把握出来る様にしている。	○	利用者の日々の変化を見落とさずその人らしい生活を支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中から会話を通し、情報を収集し、家族 親類からも得ている。	○	本人を支えていく上で生活歴は、重要なので、情報収集を工夫したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活チェック ケース記録等活用し、個別の生活リズムを把握して出来ることは何か？見つけ提供するように努めている。	○	本人の生活スタイルを大事にし 尚且つ引きこもりに成らないように支援したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人 家族の要望を確認し、さらにカンファレンスを持ち その人らしい生き方を支援出来る様に計画を作成している。	○	行動障害が表出しない、精神保全に繋がられる計画書を作成し安心して暮らせるように努力したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化があれば訪問時家族に説明しているが、改めて会議を持っていない。職員とは、カンファレンスを持ち見直しを行っている。	○	職員からの情報収集に努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	中核症状を理解した上でケアするべき変化を確実に記録するようにし、カンファレンスに活かし見直しにつなげている。	○	家族との連携をとリケアプラン会議を充実させたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況にあわせて通院 外出の支援を行っている。	○	これからの多機能を活かしたサービスを学んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	隣近所の方からの声掛け 挨拶 三味線のボランティアの協力をお願いしている。	○	地域資源の発掘に努めたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族 本人の要望もあり訪問リハビリを行っている。	○	事業所の介護支援専門員と連絡を取り、サービスの情報を収集に努めたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のみの参加で協働に関わりが出来ていない。	○	運営推進会議で得た情報を元に関係を作りあげたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が出来る様に支援し訪問診療も支援している。	○	かかりつけ医からの情報交換を行いたい。

沖縄県(グループホーム 東山)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個々のかかりつけ医と認知症の中核症状に伴う行動障害について専門的な受診や相談を行っていない。	○	行動障害の情報を提供し相談し指示受けしながら、支援出来る様にした。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同法人の看護師へ常に相談を行い、病的な症状について助言を受けている。	○	健康管理が出来るよう、看護知識の勉強の場を設け職員共に向上したい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時情報を提供している。入院時は、職員で見舞いに行き情報交換行った。退院に向けて家族の意向聞き、相談員リハビリ等とカンファレンスを持つようにした。	○	個人の情報だけでなく事業所の機能も伝えていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時の対応は、家族に説明し相談している。しかし終末期についての話し合いは、持っていない。	○	今後終末期について勉強をしたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合同法人への入所も可能であるが、家族への説明相談に至っていない。	○	家族の意向を聞きながら考えていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族へ他事業所のサービス 機能を説明行い、他事業所へは、利用者 家族の情報を提供し、継続的なケアが出来る様にしている。職員が面会に行くようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーが損なわれないように、勉強会や会議で、意識の向上に努めている。	○
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に本人からの要望を聞ける態度で居られるように、努力している。状況を説明し本人が、決定できるようにしている。	○ いつでも 誰がでも 誰にでも要望を伝えられるようにしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を観ながら、本人に聞きながら支援出来る様にしている。	○ 本人の気持ちを汲み取れるよう、職員全員で努力したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えは、本人に選んでもらうようにしている。化粧 マニキュア 散髪は、希望に応じている。美容室への希望がある時は、家族へ連絡し支援している。	○
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来る事 力に合わせて食材切り 盛り付け あじみ片付けを行っている。テーブルを1つにまとめ食事を摂る様にしている。	今後継続したい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みを聞きおやつとに取り入れ楽しめるようにしている。糖尿の方で血糖値コントロールに気をつけて提供している。	○ 取りすぎにならぬよう体調 状態をみて 説明を行いながら提供していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿チェック表を使用しパターンを把握して、トイレで排泄が出来る様に支援している。失敗しても自尊心を傷つけないよう対応している。	○	自尊心を傷つけないよう統一したケアをしたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望する日 時間に合わせ行っているが、出来ないときは、出来ない理由をちゃんと説明している。		今後も継続したい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中活動的に過ごせるように、集団レク 家事の支援 散歩を提供している。不安時は、寄り添い安眠できるよう支援している。	○	日中の活動を充実させたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器の片付けを決めて役割を担ってもらっている。	○	地域の老人会に加入したい利用者を、参加させたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物 外出時本人の所持金を持たせるようにしている。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	おやつ後散歩の提供。玄関を開放いつでも、玄関先まで行けるようにしている。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の行事 行きたい場所 思い出の場所を計画を立て、支援している。	○	定期的に外出できるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある時、電話出来る様に支援している。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員から挨拶を行い訪問しやすい雰囲気を作っている。	○	家族だけでなく知人が訪問出来る様にしたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強 ビデオ参照し拘束を理解し、職員間でケアについて、話し合いを持つようにしている。	○	拘束しないケアに努めたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	天気の良い日は、玄関を開放出来る時間を設けている。外へ出たいと希望ある時は、共に出かけている。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の行動を常に観察し、居場所がわかるように職員同士声掛けを、行っている。夜間は巡視定期的に行っている。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁 はさみの本数のチェックを行う。目の届かない所に保管しているがはさみを使用したいときは、職員の下使用しています。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	予想されるリスクを検討し、事故が起こった場合は、報告書を作成しカンファレンスを行う。家族への連絡も迅速にしている。	○	安全対策委員からの情報を活かし事故に繋がらないよう、落ち着いたケアのできるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し掲示している。救急救命講習へ参加をした。	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	設備の点検を行っている。	○	運営推進会議を利用し、地域の方々と訓練できればと思います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個々のリスクを家族へ説明し、ホームで取り組み対応を話しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調に変化があれば職員間で共有し、管理者へ報告 必要である時医療機関へ繋げている。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をカルテに保管しいつでも、確認できるようにしている。薬の変更 追加は、その都度申し送っている。	○	職員が意識して服薬の作用 副作用を理解できるよう勉強会をもちたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事摂取 水分摂取のチェックを行い 運動 腹部マッサージを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きの声掛け。個々の状態に合わせ支援している。口腔チェックを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量 水分量のチェックを行い状態に合わせた、食事形態を工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成している。手洗いの方法を掲示している。消毒液の設置も行っている。	○	折りに触れ感染症について説明している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器乾燥機使用し衛生面に気をつけている。その日仕入れの食材を使用。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植木やプランターを設置し季節感を演出している。玄関先を開放し閉鎖的にならないよう心掛けている。	○	運営推進委員から広報掲示を目立つように工夫し、ホームをアピールした方が良いとの意見があり、検討していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不衛生 不潔にならないように、毎日清掃を行っている。玄関などは、季節の飾り付け行事の写真を掲示し、入居者と回想法出来る様にしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやベランダにベンチを配置し、落ち着ける空間作りに心掛けている。玄関先を開放していると、自らその場所へくつろぎに行かれるようになる。	○	安全を確保し自ら行ける場所を広げたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際現在使用中のもの住み慣れた部屋作りで良い事を伝えてあります。	○	もっとその人らしい部屋作りが出来たらと思う。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気を行い冷暖房は、入居者の様子を観ながら行っている。コーヒークラス利用し、消臭できるよう居室 チリ箱内などに使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に合わせ、ベッドの位置 浴室 居室の手すりを入居者やりハビリの方と相談して行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ベッド上でも自己にて消灯 点灯が行えるようひもを設置している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでティータイム 野菜 花を植えたり 日光浴 流しそうめんなどを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個々の認知症の中核症状を見極めそれに伴う周辺症状を観察し、それを誘発させる原因が何であるか、常に、職員同士情報を共有し、その人が穏やかに戸惑うことなく日々生活ができる様に支援していけるよう認知症ケアについて日々頑張っています。